（様式第3号）

# 出 張 報 告 書

提出日：令和7年3月13日

報告者名：津田　智子

|  |  |
| --- | --- |
| 会議名または用件  |  令和6年度　湖東圏域認知症疾患医療連携協議会 |
| 出 張 日 時  |  令和7年3月7日（金）13：30～15：30 |
| 出 張 先 (場所)  |  湖東合同庁舎1－C会議室 |
| 会議の出席者\*1  |  添付資料　協議会委員名簿（愛荘町地域支援生活センター　鈴木欠席） |
| 概 要  |  認知症疾患医療センターや地域の医療機関等との連携実態の共有と対策の検討 |
| 内 容  | 【１】湖東圏域認知症疾患医療連携協議会の経過について　　　H21.10.29設立　　　R3年度　本会議にて以下の取り組み方針ができる　　　　・支援の必要な人を把握し、確実に最初の相談窓口へつなげる。　　　　・早期に発見し、早期診断につなげる。　　　　・確実に治療継続を促進する。　　　　・BPSD出現時の受診がスムーズにでき、必要時に入院治療・レスパイト入院ができる　　　　これらの取り組み方針をもとに、以下を実施　　　　・「認知症早期診断・早期支援マニュアル」の作成及び活用促進　　　　・医療機関、関係機関との連携。　　　　　　【２】国および滋賀県の取り組みについて　　　R6.1施行　共生社会の実現を推進するための認知症基本法　　　R6.12施行　認知症施策推進基本計画　　　「レイカディア滋賀　高齢者福祉プラン第9期」R6年度スタート　　　【３】湖東健康福祉事務所（保健所）の活動について　　　R７年度　認知症対策計画案　　　　　湖東圏域認知症疾患医療連携協議会　　　　湖東認知症疾患医療連絡協議会　事例検討会　　　　管内認知症施策担当者会議　　　　ことう地域チームケア研究会　　　　認知症早期診断・早期支援マニュアルの資料集の更新　　　　若年認知症対策（企業対象の啓発）【４】湖東圏域における認知症の方を取り巻く状況について　　　・在宅療養支援の診療所数は少ない　　　・在宅訪問診療を特に行っている病院数は少ない（在宅療養後方支援病院は多い）　　　・在宅訪問歯科診療を行う病院は多いが、実績は少ない。　　　・訪問薬剤管理指導を行う薬局数は、県平均と同程度。　　　　住民の認知度が最も低い圏域。実績は中程度。　　　・訪問看護ステーションは最も多い圏域　　　　住民の認知度最も低い。実績少ない。　　　・訪問系介護施設の事業所数、職員数は滋賀県平均と同程度　　　　居宅介護支援事業所および介護支援専門員数も滋賀県平均と同程度　　　ここ５年、毎年、MC（軽度認知障害）I90人、認知症120人の増加が見込まれており、限られた資源と人材を背景に、取り組みの継続が必要。　　　【５】医療等との連携について認知症疾患医療センターオアシス（豊郷病院）　彦根市立病院　友人山崎　もの忘れ外来　認知症サポート医19名とかかりつけ医の連携も必要　彦根中央病院の認知症治療専門医の確保、もの忘れ外来再開、関係機関との連携が課題。　BPSDが落ちついたら、契約する例もあり、介護が疲弊しているのか。疲弊しないように連携できるようになりたいと（オアシス成田先生）　連携ができるようになり、以前より疲弊が減っているケアセンターの方の声もありました。　　　予約が２か月まちという問題もあるが、各機関連携し、ひどくなる前に、先手で対応したい（オアシス成田先生）【６】連携ツール「在宅医療福祉情報の森」ホームページ掲載）の活用について　認知症医療と介護の連携シートとして、以下がある。　個人情報同意書、医療連携シート、経過報告用紙（病状変化時）　　　ケアマネ、訪問看護師、サービス事業所、施設職員→医師　　　医師が、介護スタッフに対して、指導があれば返信する。 |
|  |
|  |

\*1 会議出席者の名簿を添付してください。